

令和 4 (2022) 年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	第三世代静止気象衛星群による全球高頻度観測は陸域生態環境理解に何をもたらすか？
研究代表者	市井 和仁 (千葉大学・環境リモートセンシング研究センター・教授) ※令和 4 (2022) 年 6 月末現在
研究期間	令和 4 (2022) 年度～令和 8 (2026) 年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】 本研究は、第三世代静止気象衛星群を用いた国際観測ネットワークを構築し、これまでよりも飛躍的に高い時間分解能で陸域生態系の動態を解明するとともに、得られた知見を陸域生態系モデルに反映することで、陸域生態系炭素収支のモデリングを行うことを目指している。</p> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】 世界に先駆けて日本が運用を開始した第三世代静止気象衛星に加えて、各国の後発静止衛星を融合した国際観測ネットワークを用いることで、世界を先導する研究成果が期待される。また、従来にない高時間分解能の観測を行うことで、炭素循環の解明に貢献する知見が得られることが期待される。気候変動の将来予測における不確定性を軽減するために重要な研究である。</p>